



2027年3月期 第1四半期 連結決算概況

2026年8月7日

オリンパス株式会社 | 取締役 代表執行役 社長兼 CEO ボブ・ホワイト | 執行役 チーフファイナンシャルオフィサー マイケル・パレンティ

- CEOのボブ・ホワイトでございます。オリンパス株式会社「2027年3月期第1四半期決算説明会」にご参加いただき、誠に有難うございます。まず私から、第1四半期の業績および戦略の進捗についてご説明し、その後CFOのマイケル・パレンティより当四半期の業績について詳しくご説明いたします。最後に通期業績見通しについてご説明した後、質疑応答に移りたいと思います。

免責事項

- 本資料のうち、業績見通しなどは、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化などによる変動可能性に照らし、実際の業績などが目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいようお願い致します。
- 本資料は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。また、医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれていますが、あくまでも当社の技術開発の一例としてご紹介するものであり、将来の販売をお約束するものではありません。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

目次

- CEO 1. エグゼクティブサマリー
- CEO 2. 戦略の進捗
- CFO 3. 2027年3月期 第1四半期 連結業績および事業概況
- CFO 4. 通期業績見通しに対する進捗
- 5. Appendix

エグゼクティブサマリー

パーパスを原動力に成長を実現する企業として、 内視鏡医療の未来を切り拓く

私たちの存在意義

世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現

当社の戦略基盤

イノベーションによる成長

次世代イノベーションをリードし、
成長市場での事業拡大を図る

シンプル化

オリンパスをシンプル化し、
迅速な意思決定と効率的な運営を実現

責任ある行動

品質・オーナーシップ・実行力を重視する
ハイパフォーマンス文化の醸成を促進

FY27-FY29 財務ガイダンス

売上高¹

3-4-5%

FY29までに前年比5%の売上成長

営業利益率²

100 プラスbps

FY26を起点に毎年の利益率改善

EPS成長率²

10%超

FY26を起点としたCAGR

¹ 為替前提を固定 ² 特殊要因調整後：その他の収益および費用を除く、為替レート変動による影響は調整せず。実際の為替レートを使用

5

OLYMPUS

- まず、私たちの存在意義について改めてお話しします。「世界の人々の健康と安心、心の豊かさの実現」は、オリンパスにとって極めて重要な考え方であり、私たちがあらゆる意思決定を行う際の判断基準となっています。
- 2027年3月期は、当社の複数年にわたる戦略の初年度です。私たちは、「イノベーションによる成長」「シンプル化」「責任ある行動」の3つの柱を軸に、戦略を目に見える成果へと結び付けていきます。2027年3月期から2029年3月期にかけては、「3%-4%-5%」の売上成長（為替影響調整後）、毎年100bpsを上回る調整後営業利益率の改善、そして2026年3月期を起点とした調整後EPSの年平均成長率10%超を目標としています。第1四半期は、力強いスタートとなり、概ね通期見通しの前提に沿った進捗となりました。私たちは、一貫した成果の積み重ねを通じて信頼を構築していくことを重視しています。第1四半期は、第4四半期に築いた進捗をさらに前進させるものとなりました。

戦略の進捗

当社の戦略基盤に対する進捗

イノベーションによる成長

次世代イノベーションをリードし、成長市場での事業拡大を図る

シンプル化

オリンパスをシンプル化し、迅速な意思決定と効率的な運営を実現

責任ある行動

品質・オーナーシップ・実行力を重視するハイパフォーマンス文化の醸成を促進

- EDOFSコープを中心に、EVIS X1プラットフォームの成長モメンタムが継続
- 過去12カ月間でFDAから30件以上の510(k)認可を取得
- BioProtect社の買収を完了し、前立腺がん領域へ参入

- 事業主体のオペレーティング・モデルにより、長期的な効率化の基盤を構築
- ポジション最適化施策はおおむね完了
- FY28までの年間240億円のコスト削減効果実現に向け、計画通り着実に進捗

- Q1は北米、欧州、アジア・オセアニアでのGISの力強い業績が寄与し、高い成長を達成
- 説明責任と業績評価の強化により、一貫した実行力を発揮
- 外科事業のレビューを継続中

- 続いて、3つの戦略基盤それぞれについて、第1四半期の進捗をご説明します。
- まず、「イノベーションによる成長」です。EDOFSコープを中心に、EVIS X1プラットフォームの成長モメンタムが続いています。また、過去12カ月間でFDAから30件以上の510(k)認可を取得しました。さらに、6月にはBioProtect社の買収を完了し、前立腺がん領域への参入を実現しました。当社の既存の泌尿器科事業の販売チャネルを活用することで、追加的なインフラ投資を必要とせず、効率的に事業展開を進めることが可能となります。つまり、組織の複雑化を招くことなく、画期的な治療ソリューションを新たに獲得しています。
- 次に、「シンプル化」です。グローバル・ターゲット・オペレーティング・モデルに関連した約2,000ポジションの最適化はおおむね完了しました。2028年3月期までに年間240億円のコスト削減効果を実現する計画に沿って、着実に進捗しています。事業主体のオペレーティング・モデルの導入も完了しており、今後も継続的な効率性向上を推進していくものと考えています。
- 最後に、「責任ある行動」です。私たちは、着実な実行を通じて成果を創出することに注力しています。第1四半期は、北米、欧州、アジア・オセアニアにおけるGISの力強い業績に支えられ、堅調なスタートを切ることができました。こうした成果は、実行を重視した取り組みによって実現しています。組織全体で、明確な業績指標に基づく業務運営の規律強化を通じて説明責任の強化を進めており、その取り組みは成果として表れ始めています。外科事業に関する戦略レビューは引き続き進めています。取締役会も本件に関与しており、明確な方向性のもと、体系的にレビューを進めています。お伝えできる内容が整い次第、適切なタイミングで皆さまにご報告いたします。

FY2027は順調なスタート

GISが引き続き成長を牽引

売上高 1,684億円	北米、欧州、アジア・オセアニアの全地域で二桁成長 ^{1,2} を達成し、GISが全社の成長を牽引
YoY ¹ +21%	消化器科ポートフォリオ全体に対する堅調な需要を背景に成長
CC ² +10%	北米および欧州における底堅い需要と販促活動・事業運営の実行力の裏付け

SISの逆風は限定的

売上高 719億円	主力事業（泌尿器科および呼吸器科）は堅調に推移し、前年同期比で成長 ^{1,2}
YoY ¹ +7%	売上への影響は、出荷止め対象の特定製品に集中
CC ² ▲4%	出荷止めに伴う逆風要因は特定されており、正常化への道筋も見えている

Q1の好調な業績を踏まえ、通期業績見通しを据え置き

連結売上高：2,404億円（+16% YoY¹、+5% CC²）
北米、欧州、アジア・オセアニアでのGISの力強い業績が成長を牽引

売上成長に加え、研究開発費の発生タイミングやポジション最適化プログラムによる人件費削減効果が寄与し、利益率が改善

通期見通しは据え置き。下期に見込む構造的な追い風を背景に通期見通し達成を目指す

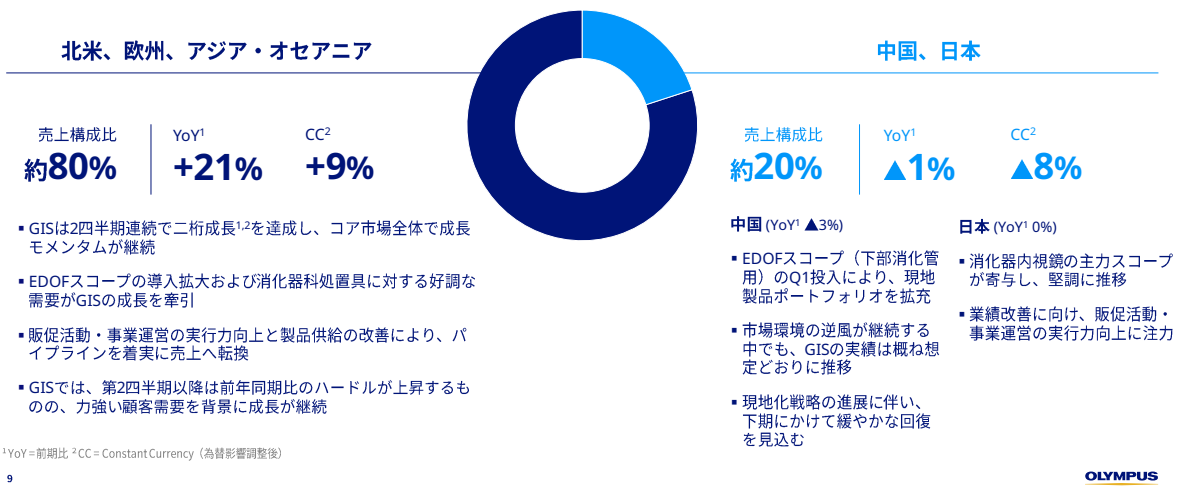
¹YoY = 前期比 ²CC = Constant Currency（為替影響調整後）

8

OLYMPUS

- それでは、業績についてご説明します。
- 第1四半期は、売上高、利益率、営業利益のいずれにおいても順調なスタートとなりました。市場の需要は堅調であり、製品競争力も高く、重点領域に注力した着実な実行の成果が業績に表れています。連結売上高は2,404億円となり、前年同期比16%増、為替影響調整後では5%増となりました。また、売上成長に加え、研究開発費の計画的な配分や、ポジション最適化プログラムによる人件費削減効果により、利益率は約640bps改善しました。
- GISの売上高は1,684億円となり、前年同期比21%増、為替影響調整後では10%増と、2四半期連続で堅調な成長となりました。GISは引き続き当社の成長を牽引しており、競争力の高い製品ポートフォリオと医師との強固な関係を基盤に、今後も成長を続けていくと考えています。その好例がEDOFスコープです。市場浸透が着実に進んでおり、当社製品の高い競争力を示しています。
- SISについては、主力事業の泌尿器科および呼吸器科はいずれも成長しました。一方、為替影響調整後で4%の減収となりましたが、その大半は、自主的な出荷止めの対象となっているサージカルデバイスの一部製品を含むその他の治療領域によるものです。これは特定製品に起因するものであり、影響範囲も明確で、正常化への見通しも立っています。
- 第1四半期の好調な業績は、当社が通期見通しに沿って順調に進捗していることを示しています。第1四半期の業績には、一部タイミング要因および比較対象の影響がポジティブに寄与した一方で、販促活動・事業運営における実行力向上、製品採用の進展、コスト規律の強化といった事業基盤の改善も表れています。一方で、今期はまだ始まったばかりであることから、通期見通しについては据え置きます。期中の業績推移に関する前提については、この後マイケルよりご説明いたします。

主要市場における持続的な成長



- 続いて、地域別の状況についてご説明します。北米、欧州、アジア・オセアニアにおける成長が、中国および日本での短期的な逆風を十分に補っています。一方で、中国および日本についても、私たちは明確かつ計画的な方針のもとで着実に取り組みを進めています。
- 北米、欧州、アジア・オセアニアは当社売上高のおよそ80%を占めていますが、第1四半期もこれらの地域では力強い業績を達成しました。北米および欧州では、それぞれ前年同期比24%増、19%増（為替影響調整後12%増、5%増）と高い成長を実現し、アジア・オセアニアも堅調に推移しました。この成長は、EDOFスコープおよび消化器科処置具が主な牽引役となっています。安定した供給体制と強い組織力が発揮できている市場では、当社事業の力強い成長が実現できています。
- 第1四半期には、中国市場における当社の現地化戦略の中核となる取り組みとして、下部消化管用EDOFスコープを中国で発売しました。これにより、市場ニーズに合った製品を提供できるようになり、顧客との関係においても重要な役割を果たしています。ただし、前回の第4四半期決算説明会でも申し上げたとおり、中国市場の成長軌道は直線的なものではなく、業績の改善は下期にかけて段階的に現れると見込んでいます。
- 日本では、厳しい市場環境の中にあっても、自らコントロールできることに注力しています。2026年の診療報酬改定において過去30年間で最大規模の引き上げが実施されました。一方で、短期的には医療機関による設備投資は引き続き慎重な状況が続くとみえています。そのような環境の中でも、消化器内視鏡の主力スコープ製品に対する需要は堅調に推移しており、GISの日本事業では第1四半期にわずかながらプラス成長となりました。

患者さんの安全を最優先に取り組みを継続

FDA エンゲージメント

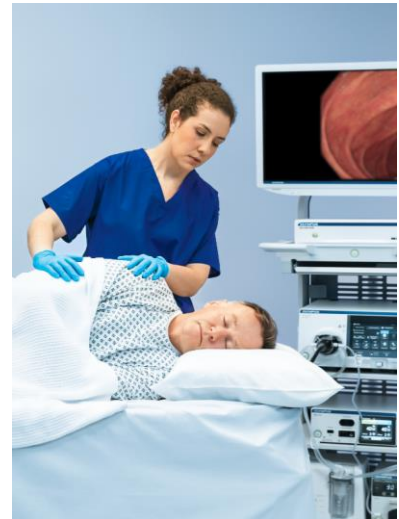
FDAとの継続的かつ建設的な対話を維持。取り組みの進捗に応じた透明性の確保に引き続き取り組む

事業継続

出荷止めの影響を受けている製品の大半について、FY27下期に市場への供給再開を見込む

品質 リーダーシップ

業界で40年以上の経験を有するブライアン・バリーを、執行役チーフクオリティオフィサー（最高品質法規制責任者）として任命。ブライアンが品質向上の次のフェーズを主導し、品質システムの強化と品質文化のさらなる定着を引き続き推進

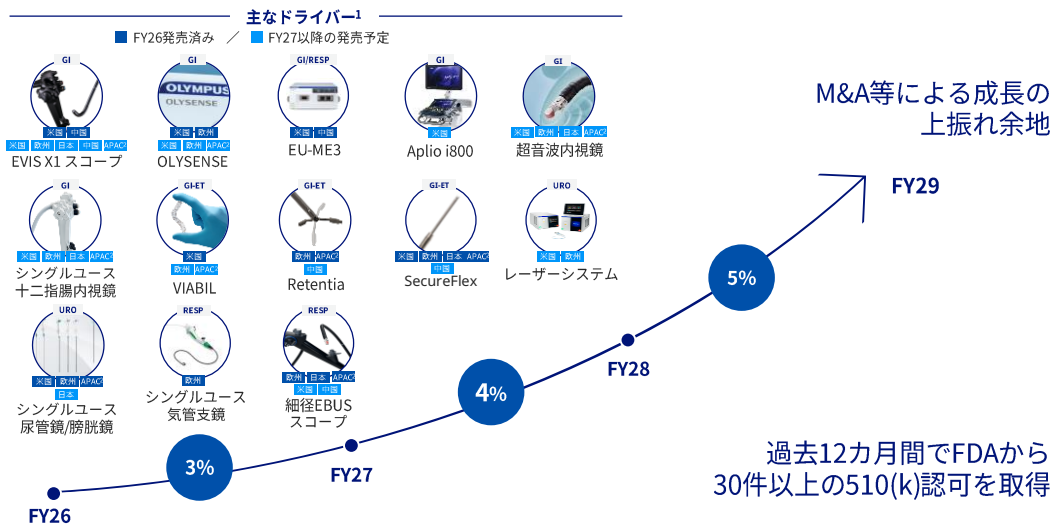


OLYMPUS

10

- 次に、品質向上に向けた取り組みについてご説明します。FDAとは引き続き建設的かつ透明性のある対話を継続しており、是正活動の計画を着実に実行し、規制当局の期待に応えることに注力しています。昨年秋に実施された査察については、現時点でFDAから最終的な結果は示されていません。
- 自主的な出荷止めの影響を受けている製品の大半については、2027年3月期の下期に市場への出荷を再開できる見込みであり、この前提は通期見通しにも織り込んでいます。
- 最後に、先日公表したリーダーシップ人事についてご説明します。ブライアン・バリーが執行役 チーフクオリティオフィサー（最高品質法規制責任者）として就任しました。今回の任命は、この重要な機能におけるサクセッションプランの一環です。私たちは品質向上の新たな段階に入っており、LEAN／シックスシグマのケイパビリティの強化、品質文化の定着、そして継続的な改善を推進しています。ブライアンは40年以上にわたる医療機器業界での経験を有し、直近ではMedtronic社において臨床・規制対応ソリューション部門のバイス・プレジデントを務めていました。規制対応上の課題解決や品質システムの改善において豊富な実績を有しており、その経験は当社が進める品質変革の次のフェーズの推進に大いに資するものと考えています。また、これまで長年にわたりリーダーシップを発揮してきたボリスにも感謝の意を表したいと思います。ボリスは、現在の取り組みの礎となる強固な基盤を築いてくれました。彼とチームが成し遂げた成果を、私は誇りに思っています。

テクノロジーの実践：イノベーションを通じて医療の発展に貢献



11 ¹ 2026年8月7日時点の想定。製品の発売時期については前後する可能性があります。² アジア・オセアニア

OLYMPUS

- 続いて、イノベーションについてご説明します。私たちは2027年3月期を通じて、新製品を次々と市場に投入してまいります。
- 過去12カ月間で、当社はFDAから30件以上の510(k)認可を取得しました。この点は特筆すべき成果だと考えています。私たちは大規模な品質改善プログラムを進める一方で、研究開発活動も再び勢いを取り戻しています。こうした進捗を踏まえ、2027年3月期から2029年3月期における成長目標の達成に向けて、製品投入パイプラインが重要な成長ドライバーになるとの確信を深めています。
- マイケルに引き継ぐ前に、信頼は四半期ごとの着実な成果の積み重ねによって築かれるものだということを改めてお伝えしたいと思います。私たちが今注力すべきことは明確です。計画の着実な実行、品質の強化、イノベーション主導の成長の推進を通じて、患者さん、お客様、そして株主の皆様を持続的な価値を提供していきます。
- 最後に、先週発生した地震により被害を受けた熊本の皆さまにお見舞い申し上げます。この災害の影響を受けられた多くの方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、オリンパスとしても、救援・復旧活動を支援するためにできる限りの支援を行ってまいります。支援の一環として、日本赤十字社への寄付を実施するとともに、被災地における救援活動を支援するため、災害救援物資を提供しています。
- それでは続いて、マイケルより、実績の詳細および業績見通しについてご説明いたします。

連結業績および事業概況

2027年3月期 第1四半期

- ボブ、ありがとうございます。皆様、本日はご参加いただき、ありがとうございます。
- 本日は、3点ご説明します。まず、第1四半期業績の背景、次に当社業績を構成する事業の詳細、そして、それらが通期見通しの枠組みにどう結びつくかについてです。

2027年3月期 第1四半期実績ハイライト

ハイライト

第1四半期は順調なスタート
通期見通しの達成への確信を深める



- 売上高は2,404億円、前年同期比で16%成長（為替影響調整後で5%成長）
GISの北米、欧州、アジア・オセアニアが好調に推移
- 調整後営業利益率は12.8%、前年同期比で6.4%pp増（為替影響調整後で5.7pp増）主な要因は売上成長と研究開発費や人件費の減少

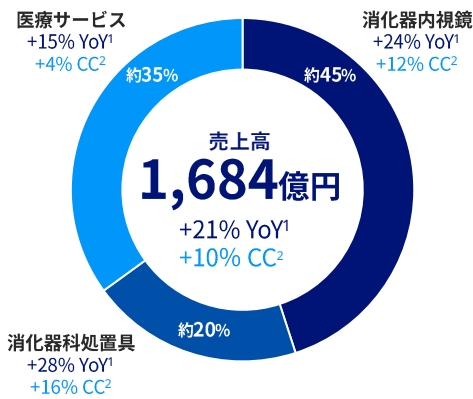
売上高	2,404億円	+16% YoY ² +5% CC ³
調整後営業利益率 ¹	12.8%	+6.4pp YoY ² +5.7pp CC ³
調整後EPS	20円	+130% YoY ²
調整後FCF	92億円	+267億円 YoY ²

¹ 特殊要因調整後：その他の収益および費用を除く。為替レート変動による影響は調整せず。実際の為替レートを使用

² YoY = 前期比 ³ CC = Constant Currency（為替影響調整後）

- 連結売上高は2,404億円、前年同期比で16%、為替影響調整後で5%の成長となりました。この増収の背景には、相反する2つの要因があります。1つ目が主力市場におけるGISの二桁成長、2つ目が主にSISにおける出荷止めやFDA関連の輸入警告による約130億円の売上の減少です。この影響を除けば、事業は順調なスタートを切ったと評価しています。
- 調整後営業利益は307億円と前年同期比133%の増益です。調整後営業利益率は前年同期比で6.4ポイント改善し12.8%、為替影響調整後では5.7ポイント改善しました。利益率改善は主に2つの要因によるものです。まずGISにおいて売上成長と良好な製品ミックスにより利益率が向上したこと、次に研究開発費およびポジション最適化プログラムに伴う人件費の減少により販管費が大幅に削減されたことです。
- 調整後EPSは前年同期比130%増の20円となりました。
- 調整後フリーキャッシュフローは前年同期比267億円増の92億円でした。主な要因は、税引前利益の増加と法人税支払いの減少によるものです。2027年3月期は税引前利益が回復するにつれて、調整後フリーキャッシュフローも前期を上回る改善を見込んでいます。

2027年3月期 第1四半期実績 消化器内視鏡ソリューション事業



¹YoY = 前期比 ²CC = Constant Currency (為替影響調整後)

14

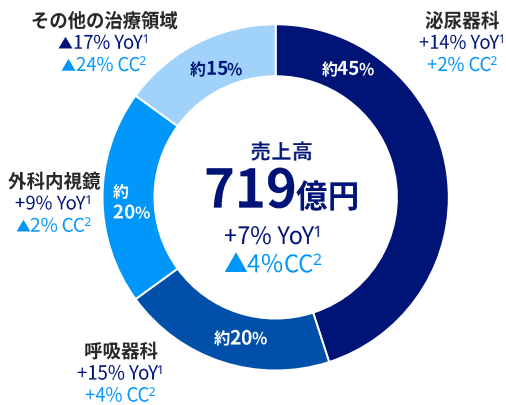
Q1実績の主な要因 (前期比)

消化器内視鏡	EDOFスコープの継続的な普及拡大と、EU-ME3の強い需要が成長を牽引し、前年同期比で24%成長。成長は幅広い地域に渡り、北米、欧州、アジア・オセアニアでは二桁成長を達成
消化器科処置具	VIABILステントの好調な業績とコアポートフォリオ全体での継続的な成長により、前年同期比で28%成長。北米と欧州が成長を牽引
医療サービス	継続的なサービス契約の売上と欧州と北米における堅調な事業運営により、前年同期比で15%成長

OLYMPUS

- 続いて、GISの業績の詳細についてご説明します。
- GISの売上高は1,684億円、前年同期比で21%、為替影響調整後では10%の成長となりました。事業のサブセグメントでは、消化器内視鏡が24%、消化器科処置具が28%、医療サービスが15%の成長となりました。GIS売上の80%超を占める北米、欧州、アジア・オセアニアの好調な推移が、中国および日本市場の軟調さを上回っており、この傾向は前四半期に続くものです。特にGISの北米では、2四半期連続で高い成長率を維持しており、市場需要の力強さと営業活動の実行力の高さを改めて示しています。それでは、各サブセグメントの状況についてご説明します。
- 消化器内視鏡では、北米、欧州、アジア・オセアニアが力強い二桁成長を達成し、24%の増収となりました。EDOFスコープの継続的な普及拡大と、内視鏡用超音波観測装置「EU-ME3」の強い需要、継続的な実行力の改善が成長を牽引し、北米は力強い成長となりました。また、需要は引き続き旺盛であり、一部製品では供給を上回る受注状況が継続しています。欧州においては、ポーランドにおけるEUの補助金を活用した案件などの追い風もある中、前期末からの受注残の売上計上も進み、好調に推移しました。加えて、各国で販売活動が順調に進展したことにより、欧州全体で好調な成長を達成しました。
- 消化器科処置具では前年同期比28%成長と、GISの中で最も高い成長率となりました。この成長は、北米と欧州が牽引しています。北米では、2026年3月期に発売したVIABILステントが成長の主な要因となりました。同製品は現在、本格的な市場展開フェーズに入っています。今四半期の成長実績は、新製品が一定の販売規模に達した際に大きな売上貢献を生み出せることを示しています。
- 医療サービスでは、継続的なサービス契約の売上と欧州と北米における堅調な事業運営により、前年同期比で15%成長を実現しました。

2027年3月期 第1四半期実績 サージカルインターベンション事業



Q1実績の主な要因（前期比）

泌尿器科	BPH用の切除用電極等の売上が増加し、前年同期比で14%成長。欧州と北米が成長を牽引
呼吸器科	EBUS-TBNAで使われる超音波気管支鏡や処置具が好調に推移し、前年同期比で15%成長。北米が成長を牽引
外科内視鏡	欧州の売上増加と為替の追い風により、前年同期比で9%成長
その他の治療領域	サージカルデバイスにおける一部製品の出荷止めの影響などにより、前年同期比で▲1.7%減収

¹YoY=前期比 ²CC= Constant Currency (為替影響調整後)

15

OLYMPUS

- 次に、SISです。まずは各サブセグメントの説明に入る前に、SISの業績についてご説明します。注力領域の泌尿器科と呼吸器科は堅調なスタートとなりましたが、出荷止めおよび輸入警告による約120億円の売上影響により相殺されました。SISの売上は719億円、前年同期比で7%の増収、為替影響調整後で▲4%の減収となりました。
- 泌尿器科では、前年同期比で14%の成長となりました。欧州や、北米が売上を牽引し、BPH（前立腺肥大症）用の切除用電極等が好調に推移しました。
- 呼吸器科では、北米が売上を牽引し、前年同期比で15%の成長となりました。一部製品の出荷止めの向かい風があったものの、EBUS-TBNA（超音波気管支鏡ガイド下針生検）で使われる超音波気管支鏡や処置具が好調に推移しており、この影響を相殺しています。
- 外科内視鏡では、欧州で売上が増加したことに加え、為替が円安に推移し、前年同期比で9%の成長となりました。
- その他の治療領域では、前年同期比で▲17%の減収となりましたが、これは特定のサージカルデバイスの製品における自主的な出荷止めによるものです。影響範囲は限定的かつ原因も明確です。出荷再開に伴い下期には解消される見込みであり、これは通期見通しにも織り込んでいます。

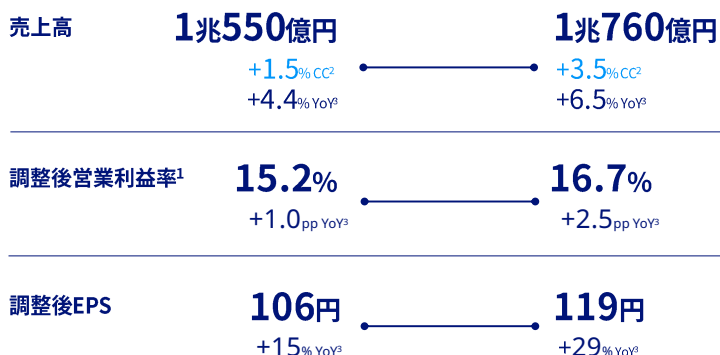
通期業績見通しに対する進捗

2027年3月期

2027年3月期 通期業績見通し 連結業績

2027年3月期の通期見通し

- 5月時点から変更なし
- 毎年の100+bpsの利益率の改善に向けて計画通り進捗



第一四半期は力強いスタート
当社計画への確信を深め、2027年3月期の通期見通し達成に向けて順調に進捗

¹ 特殊要因調整後：その他の収益および費用を除く。為替レート変動による影響は調整せず。実際の為替レートを使用² CC = Constant Currency (為替影響調整後) ³ YoY = 前期比

- 第1四半期業績を通期見通しの枠組みに結びつけてご説明します。
- まず、通期見通しは、5月時点から変更ありません。売上高は1兆550億円から1兆760億円、調整後営業利益率は15.2%から16.7%、調整後EPSは106円から119円を見込んでいます。事業別では、GISの売上高の見通しは7,440億円から7,490億円、調整後営業利益率の見通しは24.4%から25.1%です。SISの売上高の見通しは3,110億円から3,270億円、調整後営業利益率の見通しは1.6%から5.4%であり、これは計画に織り込んでいる下期の出荷再開による正常化を反映しています。
- 配当については、2027年3月期の期末配当を1株当たり30円と見込んでいます。
- キャピタルアロケーションの通期見通しについて、研究開発支出を1,190億円、資本的支出を950億円と見込んでおります。研究開発の投資は、成長戦略に直接貢献する重点プログラムに集中させており、適切な投資配分の考え方に基づいて実行しています。
- 今期は堅調なスタートとなりました。主要市場で着実に実行力が向上していることに加え、前年同期の実績が低い影響もあり、成長を実現しました。これは、当社事業のモメンタムが着実に高まっていることを示しており、通期業績見通しに対して進捗していることを心強く感じています。一方、通期見通しについては、まだ期初の段階であることから、現時点では見通しを据え置くのが妥当だと考えています。第4四半期にお伝えした通り、下期には構造的な追い風を見込んでいます。これには、新製品投入、出荷止めの解消、効率改善の拡大が含まれており、これらがすべて成長を後押しする見込みです。
- こうした要因は、下期に向けた当社の確信を一段と深めるものであり、通期見通しの達成に対する自信に繋がっています。
- 下期の見通しがより明確になり次第、見通しのレンジについて適宜アップデートしてまいります。



- 最後に、第1四半期の業績を非常に喜ばしく思っています。今期の残り期間も、そしてその先も、私たちの重点は引き続き信頼性の向上にあります。すなわち、約束したことを継続的かつ着実に実行し、その積み重ねによって信頼を築いていくということです。
- ご清聴いただき、ありがとうございました。ボブと私、そしてチーム一同、皆さまからのご質問をお待ちしております。

Appendix

2027年3月期 第1四半期 連結業績概況

(単位：億円) ※EPS、調整後EPSを除く	FY26 Q1	FY27 Q1	前期比	為替影響調整後
売上高	2,065	2,404	+16%	+5%
売上原価	714	836	+17%	+5%
売上原価率	34.6%	34.8%	+0.2pp	0.0pp
販管費	1,222	1,250	+2%	▲6%
販管費率	59.2%	52.0%	▲7.2pp	▲6.3pp
持分法による投資損益	2	▲11	-	-
その他の収益および費用	34	▲17	-	-
営業利益	166	290	+74%	+48%
営業利益率	8.0%	12.0%	+4.0pp	+3.3pp
調整後営業利益 ¹	132	307	+133%	+98%
調整後営業利益率	6.4%	12.8%	+6.4pp	+5.7pp
税引前利益	169	276	+63%	
税引前利益率	8.2%	11.5%	+3.3pp	
当期利益 ²	90	191	+112%	
EPS	8円	18円	+123%	
調整後EPS	9円	20円	+130%	

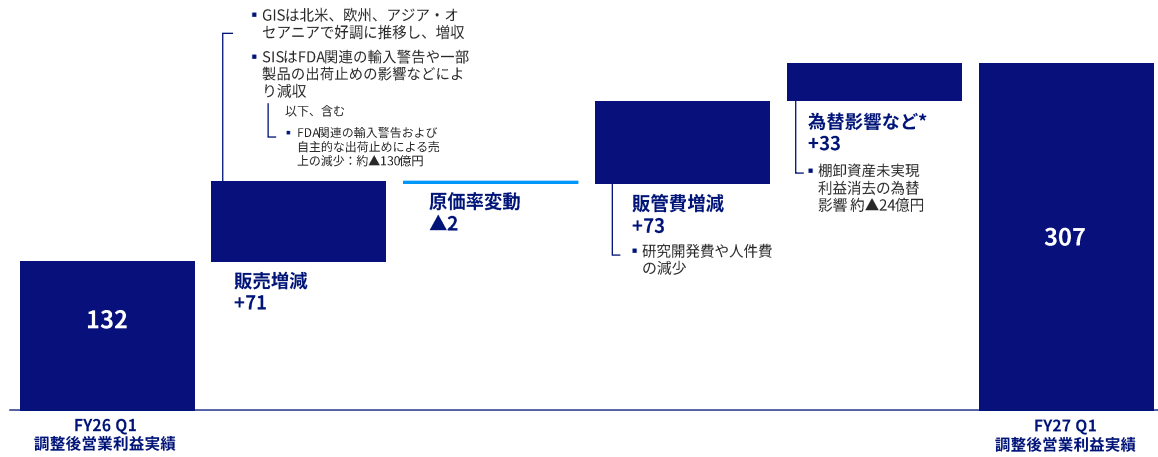
¹ 営業利益からその他の収益および費用を差し引いた数値 ² 親会社の所有者に帰属する当期利益

2027年3月期 第1四半期 サブセグメント別概況

(単位：億円)		FY26 Q1	FY27 Q1	前期比	為替影響調整後
消化器内視鏡ソリューション	売上高	1,390	1,684	+21%	+10%
	営業利益	181	386	+113%	+84%
	営業利益率	13.0%	22.9%	+9.9pp	+8.9pp
	調整後営業利益 ¹	201	393	+95%	+69%
	調整後営業利益率	14.5%	23.3%	+8.9pp	+7.9pp
サージカルインターベンション	売上高	674	719	+7%	▲4%
	営業損益	▲19	▲24	-	-
	営業利益率	-	-	-	-
	調整後営業利益 ¹	▲13	▲21	-	-
	調整後営業利益率	-	-	-	-
全社・消去 ²	売上高	1	0	-	-
	営業損益	3	▲73	-	-
連結合計	売上高	2,065	2,404	+16%	+5%
	営業利益	166	290	+74%	+48%
	営業利益率	8.0%	12.0%	+4.0pp	+3.3pp
	調整後営業利益 ¹	132	307	+133%	+98%
	調整後営業利益率	6.4%	12.8%	+6.4pp	+5.7pp

¹ 営業利益からその他の収益および費用を差し引いた数値 ² 2027年3月期より新規事業に関する研究開発や探索活動が事業セグメントの定義を満たさなくなったため、従来「その他」の区分に計上していた金額を「全社・消去」の区分に計上しております。この変更に伴い、FY26 Q1の値も変更後の区分に組み替えて表示しています

2027年3月期 第1四半期実績 連結調整後営業利益増減要因



(単位：億円) * 「持分法による投資損益」が含まれています

プロダクトパイプライン：消化器内視鏡ソリューション事業 (2026年8月7日時点)

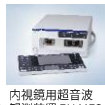
現在の主力製品

消化器内視鏡

- EVIS X1システム・スコープ
- EVIS EXERA IIシステム・スコープ
- EVIS LUCERA ELITEシステム・スコープ
- 内視鏡用超音波観測装置EU-ME3
- 超音波画像診断装置Aplio i800 EUS



EVIS X1システム



内視鏡用超音波観測装置 EU-ME3



超音波画像診断装置 Aplio i800 EUS

消化器科処置具

- ERCP (ガイドワイヤ)
- ESD&EMR (ESDナイフ)
- サンプルング (スネア、生検鉗子)
- 止血 (止血クリップ、止血関連ソリューション)
- EUS (超音波内視鏡検査用吸引生検針)



ガイドワイヤ



ESDナイフ

FY2026発売の主な製品

消化器内視鏡

- EXIS X1 EDOF上部消化管用ビデオスコープ (米国、中国)
- EXIS X1 EDOF下部消化管用ビデオスコープ (米国)
- OLYSENSE¹ CAD/AI (米国、欧州)
- 内視鏡用超音波観測装置EU-ME3 (米国、中国)

消化器科処置具

- 止血クリップRetentia (欧州、アジア・オセアニア)
- 超音波内視鏡検査用吸引生検針SecureFlex (米国、欧州、日本、アジア・オセアニア)
- 大腸内視鏡先端アタッチメントEndoCuff Vision (日本)
- ディスオーダーブル回収ネット (欧州)
- 高周波スネア (欧州)
- 胆管用メタリックステントVIABIL (米国)

FY2027発売および発売予定の主な製品

消化器内視鏡

- EXIS X1 EDOF下部消化管用ビデオスコープ (中国)
- EVIS X1スコープ (米国、欧州、日本、アジア・オセアニア)
- OLYSENSE Asset Care (欧州)
- OLYSENSE Computer-Aided Metrics (欧州)
- 新超音波内視鏡 (欧州、日本、アジア・オセアニア)
- シングルユース十二指腸内視鏡 (米国、日本)
- 超音波画像診断装置Aplio i800 EUS (米国)

消化器科処置具

- 止血クリップRetentia (中国)
- 胆管用メタリックステントVIABIL (欧州、アジア・オセアニア)

FY2028以降発売予定の主な製品

消化器内視鏡

- EVIS X1スコープ
- 新超音波内視鏡 (米国)
- OLYSENSE CAD/AI (アジア・オセアニア)
- OLYSENSE Report (欧州)
- OLYSENSE Computer-Aided Metrics (米国)
- OLYSENSE Insights
- シングルユース十二指腸内視鏡 (欧州、アジア・オセアニア)

消化器科処置具

- 止血関連ソリューションEndoClot (中国、アジア・オセアニア)
- 超音波内視鏡検査用吸引生検針SecureFlex (中国)
- 新止血クリップ
- 胆管用プラスチックステント

¹ OLYSENSEはオリンパス株式会社および/またはそのグループ会社の商標です。すべての商標、ロゴ、ブランド名は、それぞれの所有者に帰属します
(注) 医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております
(注) 本資料に掲載されている製品は、指定された地域内の全ての国で販売されるものではありません

プロダクトパイプライン：サージカルインターベンション事業

(2026年8月7日時点)

現在の主力製品

泌尿器科

- レゼクト電極、ESG-410
- ツリウムファイバーレーザー装置
SOLTIVE SuperPulsed Laser System



レゼクト電極、
ESG-410



SOLTIVE
SuperPulsed
Laser System

呼吸器科

- EVIS X1 気管支鏡
- シングルユース気管支鏡
- 気管支鏡、超音波気管支鏡
- ディスポーザブル吸引生検計
- スパイレシジョンバルブシステム
- 内視鏡用超音波観測装置EU-ME3



EVIS X1 気管支鏡



吸引生検計

外科内視鏡

- VISERA ELITE III



VISERA ELITE III

FY2026発売の主な製品

泌尿器科

- シングルユース尿管鏡/膀胱鏡（米国、欧州、アジア・オセアニア）
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System（日本）
- VISERA S（米国）
- OES ELITE 硬性膀胱鏡（欧州、アジア・オセアニア）

呼吸器科

- 細径EBUSスコープ（欧州、日本、アジア・オセアニア）
- 内視鏡用超音波観測装置EU-ME3（米国、中国）
- シングルユース気管支鏡（欧州）

外科内視鏡

- VISERA ELITE III（米国、中国）

FY2027発売および発売予定の主な製品

泌尿器科

- シングルユース尿管鏡/膀胱鏡（日本）
- 4Kカメラヘッド（米国、中国）
- OES ELITE 硬性膀胱鏡（米国、日本）
- レーザーシステム（米国、欧州）
- BioProtect社製品/バルーン・スパーサー（米国）

呼吸器科

- EVIS X1 気管支鏡（米国）
- 細径EBUSスコープ（米国）

外科内視鏡

- ENDOEYEビデオ腹腔鏡（米国、欧州、日本、アジア・オセアニア）

FY2028以降発売予定の主な製品

泌尿器科

- レーザーシステム
- VISERA S（中国）
- OES ELITE 硬性膀胱鏡（中国）

呼吸器科

- EVIS X1 気管支鏡（中国）
- 細径EBUSスコープ（中国）

外科内視鏡

- 次世代外科内視鏡システム

(注) 医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております
(注) 本資料に掲載されている製品は、指定された地域内の全ての国で販売されるとは限りません

2027年3月期 第1四半期実績 連結調整後営業利益

☒ 調整後営業利益は、営業利益から「その他の収益・その他の費用」を差し引いた数値を記載

(単位：億円)	FY26 Q1	FY27 Q1
営業利益	166	290
①調整項目：その他の収益	70	11
主な収益科目	■株式会社エビデントとのライセンス使用許諾等に関する合意に基づく対価 60（全社・消去）	
②調整項目：その他の費用	▲36	▲28
主な費用科目	■品質保証・法規制対応の変革プロジェクト「Elevate」に係る一時的な費用 ▲24（GIS、SIS）	
調整後営業利益	132	307

連結財政状態計算書

- 1 総資産は減少。株主還元やBioprotect社の買収などにより現預金が減少し、BioProtect社の買収によりのれんが増加
- 2 社債及び借入金による短期・長期の資金調達（780億円）を主要因に、負債は増加
- 3 自己株式の取得や配当金の支払を主要因に、資本は減少

(単位：億円)	2026年3月末	2026年6月末	増減額		2026年3月末	2026年6月末	増減額
流動資産	7,063	6,375	▲688	流動負債	4,369	4,674	+305
現金及び現金同等物	1,880	1,185	▲695	営業債務及びその他の債務	806	617	▲190
営業債権及びその他の債権	2,368	2,103	▲265	社債および借入金	799	1,391	+593
棚卸資産	2,071	2,213	+14.2	その他の流動負債など ¹	2,764	2,666	▲98
非流動資産	8,309	8,890	+581	非流動負債	2,882	3,112	+229
有形固定資産	2,872	2,977	+105	社債および借入金	1,597	1,798	+201
無形資産	1,010	1,033	+23	資本	8,120	7,479	▲641
のれん	1,942	2,401	+459	自己資本比率	52.8%	49.0%	▲3.8pp
資産 合計	15,372	15,265	▲107	負債および資本合計	15,372	15,265	▲107

¹ 連結財政状態計算書の勘定科目である、その他の金融負債、未払法人所得税、引当金、その他の流動負債を含みます

連結キャッシュフロー計算書

- 1 FCF：税引前利益の増加と法人税の支払の減少の一方、BioProtect社の買収を主要因に、FCFは499億円のマイナス。特殊要因を考慮した調整後FCFは92億円のプラス
- 2 財務CF：自己株式の取得による支出と配当金の支払による減少を、社債及び借入金による短期・長期の資金調達で一部相殺し、210億円のマイナス

(単位：億円)	FY26 Q1	FY27 Q1	増減
税引前利益	169	276	+107
営業キャッシュフロー（営業CF）	▲152	143	+295
投資キャッシュフロー（投資CF）	▲175	▲642	▲467
フリーキャッシュフロー（FCF）	▲327	▲499	▲172
調整後フリーキャッシュフロー（調整後FCF）	▲175	92	+267
財務キャッシュフロー（財務CF）	225	▲210	▲434
現金および現金同等物期末残高	2,412	1,185	▲1,227

FY26 Q1の主な特殊要因	
営業CF：科学事業の譲渡に関連した税金の支払（海外）	▲147億円

FY27 Q1の主な特殊要因	
営業CF：グローバルレベルで組織体制を変革し、人員数の最適化を図るための施策の実施に関する支出	▲133億円
投資CF：BioProtect社の株式の取得、SwanEndoSurgical, Inciに対する出資など	▲459億円

¹ 「その他の収益・その他の費用のうちキャッシュイン、アウトしたもの」、「M&A関連支出」、「構造改革関連支出」など特殊要因を調整

2027年3月期 通期業績見通し 連結業績

(単位：億円) ※EPS、調整後EPSを除く	FY26通期	FY27 通期見通し	前期比	為替影響調整後
売上高	10,107	10,550~10,760	+4.4%~+6.5%	+1.5%~+3.5%
売上原価	3,566	3,675~3,690	+3.1%~+3.5%	+2.7%~+3.1%
売上原価率	35.3%	34.3%~34.8%	▲1.0pp~▲0.4pp	▲0.1pp~+0.4pp
販管費	5,071	5,195~5,200	+2.4%~+2.5%	▲0.1%~0%
販管费率	50.2%	48.3%~49.2%	▲1.8pp~▲0.9pp	▲1.7pp~▲0.8pp
その他の収益および費用など	▲499	▲315	-	-
営業利益	971	1,365~1,555	+40.6%~+60.1%	+23.3%~+42.6%
営業利益率	9.6%	12.9%~14.5%	+3.3pp~+4.8pp	+2.1pp~+3.6pp
調整後営業利益 ¹	1,433	1,605~1,795	+12.0%~+25.3%	+1.4%~+14.5%
調整後営業利益率	14.2%	15.2%~16.7%	+1.0pp~+2.5pp	0pp~+1.5pp
当期利益 ²	682	955~1,090	+40.1%~+59.9%	
EPS	61円	90円~102円	+46%~+67%	
調整後EPS	92円	106円~119円	+15%~+29%	

2027年3月期配当

年間配当30円を予定

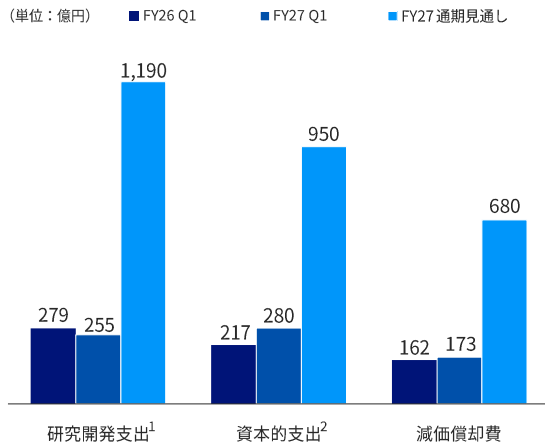
¹営業利益からその他の収益および費用を差し引いた数値 ²親会社の所有者に帰属する当期利益

2027年3月期 通期業績見通し セグメント別業績

(単位：億円)		FY26 通期	FY27 通期見通し	前期比	為替影響調整後
消化器内視鏡ソリューション	売上高	6,974	7,440~7,490	+6.7%~+7.4%	+3.7%~+4.5%
	営業利益	1,364	1,735~1,800	+27.2%~+32.0%	+17.4%~+22.2%
	営業利益率	19.6%	23.3%~24.0%	+3.8pp~+4.5pp	+2.6pp~+3.3pp
	調整後営業利益 ¹	1,644	1,815~1,880	+10.4%~+14.4%	+2.2%~+6.2%
	調整後営業利益率	23.6%	24.4%~25.1%	+0.8pp~+1.5pp	▲0.3pp~+0.4pp
サージカルインターベンション	売上高	3,131	3,110~3,270	▲0.7%~+4.4%	▲3.5%~+1.5%
	営業損益	▲150	▲25~100	-	-
	営業利益率	-	-	-	-
	調整後営業利益 ¹	8	50~175	+517.4%~+2,061.1%	+196.4%~+1,715.3%
	調整後営業利益率	0.3%	1.6%~5.4%	+1.3pp~+5.1pp	+0.5pp~+4.4pp
全社・消去 ²	売上高	2	-	-	-
	営業損益	▲243	▲345	-	-
連結合計	売上高	10,107	10,550~10,760	+4.4%~+6.5%	+1.5%~+3.5%
	営業利益	971	1,365~1,555	+40.6%~+60.1%	+23.3%~+42.6%
	営業利益率	9.6%	12.9%~14.5%	+3.3pp~+4.8pp	+2.1pp~+3.6pp
	調整後営業利益 ¹	1,433	1,605~1,795	+12.0%~+25.3%	+1.4%~+14.5%
	調整後営業利益率	14.2%	15.2%~16.7%	+1.0pp~+2.5pp	0pp~+1.5pp

¹ 営業利益からその他の収益および費用を差し引いた数値 ² 2027年3月期より新規事業に関する研究開発や探索活動が事業セグメントの定義を満たさなくなったため、従来「その他」の区分に計上していた金額を「全社・消去」の区分に計上しております。この変更に伴い、FY26通期の値も変更後の区分に組み替えて表示しています

投資実績推移および2027年3月期 通期見通し



(単位：億円)	FY26 Q1	FY27 Q1	FY27 通期見通し
研究開発支出 ¹ (a)	279	255	1,190
開発費資産化 (b)	42	46	250
損益計算書上における研究開発費 (a-b)	237	209	940

(単位：億円)	FY26 Q1	FY27 Q1
償却費	20	21
2026年3月末		2026年6月末
開発資産残高	717	747

1 研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています
2 資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。また、2021年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用権資産が含まれています。
(FY26Q1：41億円、FY27Q1：83億円、FY27通期見通し：130億円)

為替レート及び為替感応度

為替

(単位：円)	FY26 Q1	FY27 Q1	FY27 見通し
円／ドル	144.59	159.49	155
円／ユーロ	163.80	185.39	181
円／人民元	19.99	23.43	22.5

為替感応度（年間）

(単位：億円)	売上高	営業利益
ドル（1円あたり）	29	5
ユーロ（1円あたり）	17	5
人民元（1円あたり）	39	17

*上表の数値は継続事業の金額を表示しています。また、為替感応度（年間）はFY26Q4実績より算出しています

略語集

略語	英語	日本語
BPH	Benign Prostatic Hyperplasia	前立腺肥大症
EBUS-TBNA	Endobronchial Ultrasound-guided Transbronchial Fine Needle Aspiration	超音波気管支鏡ガイド下針生検
EMR	Endoscopic Mucosal Resection	内視鏡的粘膜切除術
ERCP	Endoscopic Retrograde Cholangio Pancreatography	内視鏡的逆行性胆道膵管造影術
ESD	Endoscopic Submucosal Dissection	内視鏡的粘膜下層剥離術
EUS	Endoscopic Ultrasound	超音波内視鏡